

退学防止に向けた生徒指導のあり方に関する考察

Pupil Guidance for Prevention of Dropout

樋口 康彦
HIGUCHI Yasuhiko

目的

一般的に専門学校では以下の3つの数字が大切である。

(1)学生募集における定員充足率：定員を満たすとともに、有効な選抜システムの構築により、極力優秀な学生を入学させることが学校にとって死活問題になる。学校運営の資金を学生からの納付金に頼っている私学にとってはこの数字が特に重要である。

(2)退学率：退学率は、学校運営の健全さを示す一つの目安である。また経営や社会的信用に大きな影響を与える。退学率は4～5%未満に抑える事が理想である。また、ある学年、ある学科、あるクラスだけが他に比べて顕著に高い退学率を示す場合、原因を究明しておく必要がある。

そして、退学の防止と同様に成功事例を増やすよう努力しなければならない。ちなみに成功事例とは、在学中は熱心に学習に取り組み、卒業後は希望先への就職を果たした学生のことある。最近では有名大学への編入も成功事例に含まれる。一般に、退学が増えれば成功事例は減り、退学が減れば成功事例は増える傾向にある。

経営的なメリット・デメリットに関わらず、学校が課せられた社会的使命とは入学した学生全員を社会から求められる人材に教育し、社会に送り出すことであろう。多くの退学者が出るようでは、広報活動および入学後の対応に問題があるということであり、その責任は重大である。

(3)就職率：何らかの理由で就職を希望しない学生を除き、就職率100%を目指さなければならない。また学生募集の段階で極力、就職試験を突破できそうな学生を入学させなければならない。

さて本論は専門学校における(2)の数字の低下に向けてその原因、対策について考察することを目的とする。

ここで通常義務教育を終えている者の私生活にどの程度関与して良いかという問題が浮上するであろう。一般に顧客がある企業との接触において不快な気分になる時は以下のようにであるとされている。

サービス内容に比べて値段が高い。

従業員教育がなされていない。

宣伝が過剰で誤解を抱かせる。

必要な時に助けてもらえない。

在庫切れ。

これらを大学に当てはめると、どうなるであろうか。

は教育(教科・マナー等)をしっかり行わない場合。

は教員が仕事を理解していなかったり仕事に対する専門知識が低い場合。また「学生やその親は顧客であ

る」という認識が薄い場合。

は授業内容を誇大に広告していたり就職率や就職の内容を誇大に宣伝している場合。

は就職などの世話をしない場合。

ということにそれぞれなるであろう。つまり、教員の授業、その他の場面での対応が満足度(CS)を決め、それが学校の評判に影響を与え、ひいては次年度からの定員充足率に影響を与えるということになる。また、客は学生だけではなくその背後には保護者の厳しい目が控えていることも忘れてはならない。

若者の幼児化が指摘されている昨今であるからこそ、学生の自主性だけに任せるのは不適切である。たとえ学生の全員が18歳以上だとしても学校として生徒指導にぜひ取り組まなければならない。それは時代のニーズであるといえる。とは言え、だらしのない学生を学校で厳しく鍛えて、背筋の伸びた人間に変えるということは、目指すべき理想ではあるものの実現することはかなり困難である。学生たちはそれまでの人生で人格のかなりの部分を形成してしまっており、教師や学校から受ける影響はもはやかなり小さくなってしまっているからである。しかし学校としては、その存在を維持するためできる限りのことを行わなければならない。

それからここで取り上げる事柄は、やや業務形態は異なるものの共通の顧客を抱えていることから、大学における退学防止の取り組みにもある程度の応用が可能であると考えられる。

方法

調査

調査時期 1998年4月 - 2000年3月。

場所 大阪府下の医療系専門学校であるA専門学校。

被験者 A専門学校に在籍する学生。

方法 この時期に全学で面接や退学届けから収集した資料を分析する。

結果と考察

退学に至る主な理由

ほとんどの学生は、入学当初希望に燃え、卒業するつもりでいる。しかし、途中で心変わりし、退学へと至ってしまうには様々な理由がある。

辞める時には本当の理由を言わないということがあるうえ、長期欠席の後、「一身上の都合により」という一文の書かれた用紙が送られてくることも多々あり、なかなか本当の理由をつかみにくいというのが実情である。しかし何とか把握できたデータを基にして専門学校生が退学に至る主な理由を以下に挙げる。学生はこのうちの一つあるいは複数の問題により、退学へと至ることが多い。

(1)進路変更

目標を喪失した。(職業に対するイメージが変わったためとにかくやめたい)

他校(大学・短大等)へ進学する。

就職する。

(2)学習

親に無理やり進学させられ、初めから勉強する気がない。

授業が難しいのでついて行けない。

授業のレベルが低い。

授業中うるさい。

授業が思っていたような内容ではない。(つまらない)

(3)生活

アルバイトにのめり込み，学習意欲をなくす。

遊びにのめり込み，学習意欲をなくす。(一人暮らしにより生活が乱れる)

不規則な生活から朝起きられず，出席不足からそのままずるずると退学に至る。

(4)心と体の健康上の問題

体の病気にかかる。

心の病気にかかる。(精神病，神経症的問題)

ホームシックにかかる。

遠距離恋愛が苦痛である。(遠方からの学生の場合)

(5)家庭の問題

親が離婚する。

親が再婚する。

家庭に経済的問題が生じる。(親の死亡，自営業の倒産，親の勤め先の倒産，親がリストラされる)

(6)友人関係

クラスになじめない。(仲間はずれ)

いじめられる。

友人とけんかをする。

クラブ(サークル)内での人間関係がもつれる。

寮での人間関係がもつれる。

(7)学校

先生との人間関係がうまくいかない。

学校がつまらない。(なじめない)

通学が苦痛である。

(8)実習後の意欲喪失

仕事内容がイメージと違う。

授業で習ったことが役に立たない。

業界の悪い噂(給与，労働時間等)を知り，やる気をなくす。

(9)その他

宗教的問題が生じる。

妊娠(出産)から退学に至る。

犯罪に巻き込まれる。(被害者としてまたは加害者として)

注)(1)から(9)は頻度が高い順である。

退学防止に有効な対策

以下順に挙げる。

(1)進路変更の問題への対策

教師は教務のみならず，学生募集・就職も担っているという自覚を持つ。

学生に質問された時，答えられるように，業界・就職・資格のことは普段から勉強しておく。どんな質問にも答えられることで学生たちに安心感が生まれ，教師は道標としての役割を果たすことができる。

成功事例を示しながら常に夢を与える。自分たちと同じ状況から大きく羽ばたいた先輩たちの話は，学生た

ちにとって必ず大きな動機づけとなる。

(2) 学習の問題への対策

学生が学習内容に不満を持つ理由としては、(a)入学前に過剰な宣伝をした場合、(b)学生の視野が狭いために勉強していることの意味がわかっていない場合、(c)教師が何に役に立つのか十分に説明していない場合がある。オリエンテーションなどで、各学期に学ぶことが、将来どう役に立つのかについてよく説明し、それを勉強することの意味を認識させる。

学生の成績(授業の理解度)について把握しておく。一人一人の苦手科目を把握する。そして小テストなどにより学習到達度を細かく把握しておく。

学生のノートをチェックする。授業中に寝ていて取っていない場合や、寝ていなくても取っていない場合がある。

勉強に対する意識が低くなるため、学校の机やロッカーを教科書などの保管場所として使用させない。

生徒指導の基本はまず、学校に来て授業を受けさせることである。毎回出席を取り、状況を把握するとともに、欠席の多い者および成績不良学生には面談等をして対応しなければならない。セールスには「話だけでも聞いて下さい」という常套句がある。まず出席をさせて授業を受けさせなければ教師は何もすることができない。また学生としては、いつまでたってもその教科のおもしろさを理解することができない。

資格試験合格を競わせるなど、動機付けを高める。図書室を利用し、自分で調べることの喜びを感じさせる。

座学の苦手な者がいるので、時折、実習形式の授業を取り入れる。

受講態度が悪い学生には一切躊躇せず、その場で注意を与える。本人のためにならないだけでなく回りに悪影響を与えるからである。そして、態度が悪い学生は実のところは先生から注意して欲しいがっていることを認識しておかなくてはならない。

(3) 生活の問題への対策

地方出身者用に「一人暮らし指導マニュアル」を作成し、戸締り、火の元、悪徳商法、不審人物への対応、カード類の保管と使用、などについて指導する。

基本的な生活習慣を確立させるとともに学生らしい服装とマナーで過ごすよう指導する。就職においては専門技術の他に人間性とマナーが必要なことを理解させる。またこの3つを高めることが学校の評価につながっていく。

寮生用に生活指導マニュアルを作成する。共同生活におけるマナー、特に騒音やゴミの分別の問題についてよく指導する。

遅刻、早退、欠席を把握する。

欠席の際は必ず事前に連絡するよう指導する。

連絡のないまま長期欠席が続く学生に対しては、まず本人の携帯電話に電話かメールで連絡する。通じない場合は手紙、またはその学生と仲の良いクラスメートを通じて連絡をする。それでも連絡が取れない場合は最終手段として自宅(親)に連絡する。

アルバイトの有無、業種、就業時間帯を把握しておく。

アルバイトにより問題(遅刻、欠席、成績不良)が生じた場合、二者面談および、保護者を交えての三者面談によって解決を図る。

常に将来(就職や就職後の生活)に目を向けさせ、自堕落な生活に取り込まれないよう気をつける。

実習候補先を調べさせるなど、自分の将来に関わることは学生自らに行わせる。そして、自分に関する事を行い加減にやるとそれが返ってきて、結局は自分が損をするということを理解させる機会を多く設ける。

(4) 心と体の健康上の問題

高校の調査書を熟読し、あらかじめ欠席の多い要注意者を把握しておく。

クラス別学生写真の一覧表をつくり学科の全学生の顔，名前，出身高校，出身地，その他を覚えておく。
声かけ運動により，学生が気楽に教師に対して相談できるような雰囲気を作っておく。
学期の節目ごとに個人面談を行う。

(5)家庭の問題

他人の家庭の問題にまで踏み込むことは難しいが最低限，以下のことをしておかなければならない。
高校の調査書を熟読し，家族構成を把握しておく。
保護者懇談会等により家庭環境を把握する。
奨学金や銀行の学資ローンの制度について熟知しておく。

(6)友人関係の問題

大学と異なり，専門学校はクラス制であり人間関係が密になる分，いじめ，けんか，仲間外れなどが起きやすい。
高校の調査書を熟読し，孤立児や拒否児でなかったか確認しておく。
対人関係のスキル(ソーシャルスキル)を身につけさせる。
交友関係を把握しておく。

(7)学校の問題

学校行事(文化祭，体育祭，オリエンテーションも含む)へ参加させ，帰属意識を高める。
教室の管理を行わせ，自分たちの学校という意識を高めさせる。教室を綺麗にすることは，そこで過ごす人の心もきれいにすることだと理解させる。

(8)実習後の意欲喪失の問題

実習の事前事後指導を充実させる。
訪問指導を行う。
実習の途中であっても，困った時には連絡をさせる。

(9)その他の問題

法を遵守する気持ちを教える。
道徳を遵守する気持ちを教える。

とにかくこれらの問題には教師個人としてではなく組織として対応すること，また退学の徴候を見逃さないことが基本である。退学者にどう対応したかはフォーマットを作り，日付，本人およびその保護者とどのようなやり取りをしたのかなどを記録しておくが良い。

そして，学科ごとに Table 1 のような一覧表を作って時折，情報交換をして，退学に至るパターンおよび徴候を熟知しておくことが大切である。そうは言っても，学期や年度の変り目には思ってもいない学生が退学を申し出てくる。教師は今問題を起こしていない学生にはなかなか関心が向かないということがある。

それから，事例研究(成功例および失敗例)，現場実習，海外研修，産学協同研究，資格対策に関しては担任が独自にやるのではなく，センターもしくは研究所を設け，学校としてノウハウの蓄積を行うことが望ましい。

Table 1 退学者分析資料(科)

学年	氏名	(高校)				(入試)				(生活)			心身状況	徴候	退学理由	担任
		出身校	学科:コース	評定平均	欠席日数	受験日	専願:併願	併願校	志望順位	自宅:自宅外	アルバイト	クラブ活動				
1	K K	私立 H高 校	普通 科	3.1	36	10月5日	専願		1	自宅 外	してい ない	してい ない	自律神 経失調 症	有り	神経症のため 登校できな い。	H
1	H N	私立 O高 校	普通 科	3.3	8	12月7日	専願		1	自宅	コンピ ニ店員	してい ない	特に問 題無し	有り	大学に進学す るため4月か ら予備校にい きたい。	H
1	K M	県立 G高 校	普通 科	4.5	0	2月28日	専願		1	自宅 外	スーパ ー店員	してい ない	特に問 題無し	無し	将来は介護の 仕事がした い。学校の勉 強が将来の目 標と合ってい ない。	H
1	I S	私立 E高 校・W 女子 短大	普通 科・家 政学 部	3.6	0	12月7日	専願		1	自宅	してい ない	してい ない	特に問 題無し	有り	祖母の介護を しなければな らなくなった。	H
1	S M	県立 A高 校	普通 科	3.7	1	12月7日	専願		1	自宅	してい ない	してい ない	特に問 題無し	有り	目的なく入学 したが、これ 以上続けるの が苦痛になっ た。心理以外 の科目を勉強 する自信が無 い。	M
1	Y A	県立 U高 校	普通 科	3.3	4	11月23 日	専願		1	自宅 外	新聞奨 学生	してい ない	特に問 題無し	有り	将来ミュージ シャンになり たい。そのた めの活動に専 念したい。	H
1	K R	県立 K業 高 校	情報 処理 科	3.5	60	10月5日	専願		1	自宅 外	スナッ ク店員	してい ない	特に問 題無し	有り	心理学の勉強 に専念したい のだが、福祉 の科目が多 すぎる。また 友達ができず 淋しい。	H
1	H Y	県立 Z高 校	普通 科	4.1	3	10月26 日	専願		1	自宅 外	してい ない	してい ない	特に問 題無し	有り	介護の資格を 持っているの で地元に戻り その関係の仕 事をしたい。 ホームシック で淋しい。	M
1	H S	府立 J高 校	普通 科	3.6	10	10月4日	専願		1	自宅	ソバ屋 店員	してい ない	特に問 題無し	無し	短大進学が決 まった。	M

注)退学の徴候と退学理由は別紙に詳しく記述すること。

常勤教員による授業の改善について

専門学校における生徒指導の場として、授業が最も大切であることは言うまでもない。また最大の商品である授業がおもしろくなければ必然的に退学率は上昇する。

そこで教員は教科を教えるだけではなく学校、学科の理念を熟知し、学生にも広く知らしめ、その方向に変化させていかなければならない。とかく単調な学校生活に食傷してしまいがちな学生たちの目を、実習や就職といった先に向けさせることが大切である。常任の教員は以下のことを授業を行う際の心構えとする。

授業の準備段階で気をつけること

とにかく興味を引く内容(自分が読んでおもしろいもの)を取り上げる。ただし資格試験に関連する科目については、おもしろさだけに重きを置くべきではない。過去問を暗記し、試験対策の授業を行わなければならない。

最初に一番面白いことを持ってくる。導入部分で学生たちの関心を引きつけなければならない。

最初に、今日やる内容を話し、この授業はどんな意義があり将来どのように役立つのかのについて説明する。

毎回やる分量を決める。遅れがちなときは板書の量を減らし、プリントにする。

学生のレベルに合った授業を心がける。難しい抽象用語を使う際には言葉の意味を解説する。

身近な例を挙げて説明する。抽象用語だけの解説は避ける。学生たちは意外と抽象用語の意味を知らないということを忘れてはならない。

ビデオ、パワーポイント等視覚教材を活用する。ただし多様してはいけない。

テキストに載っていないことを説明する。テキストを読むだけの授業をしてはいけない。そのような授業をした場合、学生たちは家で自習が可能だと判断し授業に出席しなくなる。

一章に一話くらいは自分の体験談を話す。

板書はできる限り図表にまとめ、重要な語句には赤線を引く。

教員は授業用ノートを作成した後、それを生徒の目になって見返す。後から読んでわかる板書を心がける。

提出物には心をこめてメッセージを書き添えてから返却する。

勉強の苦手な学生をけなすような話はなるべくしない。例えば、「落ちこぼれ」などという言葉を用意に用いてはならない。これからの時代は、学歴よりも専門技術が大事であるという話をすると良い。また、教員自身の自慢話をしてはならない。

学校や学科の理念に反した話をしない。

講義の際に気をつけること

立って行う。

なるべく誉めて自信を持たせる。

笑顔で行う。

大きく綺麗な字で板書する。

黒板は書いた順番に消す。

簡単な言葉を使い、学生の目を見てゆっくり感情を込めて話す。

時折、雑談を入れる。今社会で問題になっている出来事をその学問(教科)ではどう捉えているのかなどについて話す。

なお、上のことは、一週間に一回程度読み返し、常に忘れないようにしておくことが望ましい。

非常勤講師による授業の改善について

常勤の教員は非常勤講師と連携しながら学科の教務を行うことが望ましい。非常勤講師が担当する授業を、完全に非常勤講師に任せてしまうのは良くない。非常勤講師には常勤の教員以上に献身的に従事してくれる人と、その時間さえやり過ごせばそれでいいという人がいるからである。

そこで、最初に講師会議を行い、学校や学科の理念、コンセプト、その教科の指導目標をよく理解してもらうことが必要である。またその際、Table 2 のように気をつけて欲しいことをプリントにして渡しておく。

Table 2 非常勤講師との申し合わせ事項

休講は避けて下さい。
始業時間には教室にいるようにして下さい。
授業は立ってするようにして下さい。
出席の確認をし、欠席者を再点呼して下さい。また授業の最後に遅刻者の確認をして下さい。
授業時間における学生の飲食禁止、携帯電話の使用禁止を徹底して下さい。また寝ている学生がいたら起こして下さい。
ビデオの多用は避けて下さい。またビデオをかけている時間はビデオを観させ、他の事(例えば携帯電話をチェックするといったこと)をさせないで下さい。
出席簿は見せないで下さい。年度末に希望者のみ見せて下さい。
授業はシラバスに沿って行って下さい。
コピーはできるだけ少なくして、教科書を使って下さい。
わかりやすく板書をし、できれば小テストも実施して下さい。
難しい言葉は優しい言葉に置き換えて下さい。なるべく抽象的な言葉は使わず、もし使うときは言葉の意味を説明して下さい。
具体例や自分の体験を交えて説明して下さい。
レポートを書かせた場合は、コメントを書いて採点したうえで返却して下さい。

以下、それぞれについて若干補足説明する。

非常勤講師には休んだ場合の課題は求めない。休講の際の課題があると気軽に休まれる恐れがあるからである。

始業時間、終業時間を守ってもらい、他の授業に影響がないようにしなければならない。例えば授業を早く切り上げると、学生が廊下で騒いだりして他の授業に迷惑がかかる。

教師が座ると学生がだらけてしまうことがある。

皆勤賞との絡みもあり、しっかり出席を取ってもらう。

そのようなことはマナー違反であり、相手への侮辱であることを学生たちに認識させなければならない。それから、寝ている学生に関して言うと、出席しているということは少なくともやる気はあるはずである。そこで、起こしてあげて本当の意味で授業に参加させる。

学生が喜ぶからといって多様はいけない。

出席簿はただボールペンで記入しただけのものであり、容易に改ざんできるからである。

せっかく買わせた教科書を使わないと学生から不満が出る。

非常勤講師は業界の第一線の人である。そこで学生たちの体験不足を補うような話をぜひしてもらおう。

また非常勤講師の勤務ぶりに関して、最低限 Table 3 の事を確認しておく必要がある。

Table 3 非常勤講師に関する確認事項

シラバスをチェックし、偏りのないふさわしい内容かどうかを確認する。

学生からの聞き取りを行い、授業がシラバス通りに行われているかどうかを把握する。

授業中の飲食，携帯電話の使用，居眠りなどを適切に注意しているかどうかをチェックする。

不適切な発言(学校の方針を批判するような発言，業界の厳しさを強調するあまり夢をなくさせるような発言)をしていないかを確認する。

専任教員と同様の授業評価アンケートを実施し，わかりやすい授業を行っているかどうかを確認する。

以上まとめると，非常勤講師にもやる気になってもらい，常に学校側に立った発言を心がけてもらう。そして学生に対してはその仕事の素晴らしさを強調し夢を持たせるように方向づけてもらう。つまり，専任，非常勤の区別なく指導を統一しておくことが大切である。

終わりに

時代の変化とそれに伴う学生気質の変化により，ここで挙げた事由以外のことが退学の原因として浮上してくるかもしれない。その際には新たな対応策が求められるであろう。また，ここで挙げた以外にもっと有効な退学防止策があるかもしれない。

そこで，退学の原因となる事由に遭遇したり，その対応策が新たに見つかった場合には本論で挙げたリストにそれらの事柄を常に追加していかなければならない。それが貴重な資料となり，退学防止をよりいっそう有効にすることが可能となるであろう。

それから，本論で述べた対策・改善は全教員が一斉に行わなければならない。そうでないと学生たちは先生ごとに態度を使い分けるだけになってしまったり，楽な授業へと流れるだけに終わってしまうからである。

参考文献

- 菊池武剋(編著) 2000 生徒理解の心理学 福村出版
 坂本清治 1999 生徒指導論 学事出版
 高橋 超・石井眞治・熊谷信順(編著) 2002 生徒指導・進路指導 ミネルヴァ書房
 坂本昇一 1990 生徒指導の機能と方法 文教書院
 木原孝博 1996 現代生徒指導の理論 明治図書
 小林利宣・倉田侃司(編著) 1992 生徒指導 ミネルヴァ書房
 河原迫龍磨・仙波克也(編) 1999 生徒指導の基礎と展開 コレール社
 教師養成研究会(編著) 2000 生徒指導の理論と方法(改訂版) 学芸図書

